

鹿児島大学病院 放射線科で

バセドウ病の放射性ヨード治療を受けた患者さんへ

(臨床研究に関する情報)

鹿児島大学病院放射線科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

バセドウ氏病における放射性ヨード治療前後の胸腺の変化に関する検討「後方視的研究」

【研究機関】 鹿児島大学病院 放射線部

【研究代表者】 神宮司メグミ（放射線部・助教）

【研究の目的】

バセドウ病は甲状腺刺激ホルモンレセプターに対する抗体（TRAb）の存在により甲状腺ホルモンを過剰に産生する病気です。これに対して放射性ヨード治療は古くから行われており、甲状腺が縮小することによって甲状腺ホルモンの改善が得られます。一方、バセドウ病においては甲状腺腫大の他に胸腺の過形成がみられることが知られており、抗甲状腺薬による治療や甲状腺の摘出後に胸腺

の過形成が改善したとの報告もみられますが、放射性ヨード治療前後での詳細な検討はありません。また胸腺の過形成やバセドウ病の治療後の改善の原因もいまだはっきりしていません。

本研究はバセドウ病の放射性ヨード治療前後での胸腺の変化について解析し、甲状腺ホルモンや甲状腺刺激レセプター抗体など、どの因子が関連しているのかどうかを調べることです。

【研究の方法】

バセドウ病に対する放射性ヨード治療が行われた患者さんを対象に、当院初診時と治療半年後の頸胸部CT画像を比較します。甲状腺および胸腺の大きさと胸腺の濃度を測定し、治療前後での変化を検討します。また、年齢や治療前後の甲状腺ホルモンの変化率と甲状腺縮小率が胸腺体積・濃度の変化にどのように関連しているかを統計学的に解析します。

●対象になる患者さん

平成19年3月1日～平成24年2月29日までに鹿児島大学病院放射線科を受診され、バセドウ病に対する放射性ヨード治療を行った患者さんを対象にしています。

●利用するカルテ情報

治療時の年齢、初診時および治療半年後のCT画像と採血データ（甲状腺ホルモンや甲状腺刺激ホルモンレセプター抗体）

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する情報は、お名前や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学分野の研究費（使途特定寄付金）で実施します。この研究に対する企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 放射線部

助教 神宮司メグミ

電話 099-275-5417 FAX 099-275-1106